

# 鎌田地区の夏休み



鎌田地区  
令和5年9月1日現在  
総人口 20,051人  
(前年比 +115人)  
世帯数 9,598戸  
発行者 鎌田地区公民館  
公民館報編集委員会

## 自然と遊ぼう in

### 国営アルプスあづみの公園

8月5日、鎌田地区子ども会育成会主催で「日帰りキャンプ」を大町・松川地区の国営アルプスあづみの公園で行いました。子ども29人と、同伴保護者として役員12人が参加しました。

最初は森の体験舎でクラフト体験「森のフレームづくり」です。一枚のフレームにどのように写真を配置するかを考え、周囲の木の実や枝



木の実や枝で飾り付け

で飾り付けて、オンラインワークの作品をつくりました。

次は、ジャンゲルジムです。時間が経つのも忘れて思いっきり遊びました。おなかが減ったところデイキャンプ



どんな写真を飾ろうかな

場に移動すると、お待ちかねのバーベキュータイムで

## 子ども陶芸体験教室

夏休み中の8月9日、鎌田地区公民館主催の「子ども陶芸体験教室」を開催しました。

公民館の陶芸作業棟に集まった20人の子どもたちが陶芸サークルの皆さんの指導で小鉢とペン立てやマグカップに挑戦しました。

ろくろも使って粘土玉から器の形を立ち上げていく工程など、最初はぎこちなかったものの慣れるに当たって様々な工夫を加えながら次第に集中し、いきいきと取り組む瞳の輝きが印象的でした。



成形した器に凹凸をつけたり模様を彫り込むなど、

す。大人が肉や野菜を焼くはしから子どもたちの口に入っていきます。どの子どもも満足するまでバーベキューを楽しむことができました。もちろん、子どものは大人もいただきました。

夜、松本ほんぼんを踊る予定の女の子が「疲れたけどおなか一杯食べたので、踊る元気が出た」と語っていました。子どもたちが荷物を運ぶ姿も見られました。



大自然の中でのバーベキュー

個性豊かに仕上げた作品は素焼と本焼の工程を経て、10月中旬に子どもたちの手に届く予定です。



できあがりか  
楽しみ!!





自然を満喫!

### 美ヶ原自然散策

7月5日、鎌田地区公民館文化委員会主催で美ヶ原自然散策講座が開催されました。美ヶ原自然保護センターを出発して、王ヶ鼻へ向かい、アルプス展望コースを通って、美しいの塔で写真を撮り、山本小屋ふるさと館まで歩きました。

梅雨の時期ということもあり天候が心配されましたが、王ヶ鼻に着いたときは雲も晴れ、山の上からみんなで自分の家や鎌田地区公民館を探しました。

アルプス展望コースでは、文化委員の皆さんから花の名前を教えるもらったり、標高の話の聞いたり学びのある時間になりました。



富士山も見えた王ヶ鼻

美しいの塔に着く頃にはガスが上がってき、一面真っ白でした。こういう時にこそ美しいの塔の鐘があるのだと感心しました。地元にある場所でも知らなく、勉強になった一日でした。



## 美咲 蘭

### 語りとトークの集い

8月29日、オフィス蘭主宰の美咲蘭さんと5人の出演者による大人のための読み語る集いが、鎌田地区公民館と図書視聴覚委員会主催で開催されました。参加者で会場は溢れるほどの盛況でした。

演目は、美咲さんと5人が交代で語る「一度限りの旅」や西アフリカの昔話、安曇野の八面大王の伝説「山鳥の尾」など、心温まる数々でした。豊かな情感を全身で表現する語り口に、皆が引き込まれるように聞いていました。



会場いっぱいの参加者に広がる感動

最後に参加者からの花束贈呈があり、大きな拍手に包まれました。誰もが「素晴らしかった!」の一言につきるひと時でした。

おからサラダと手作り豆腐



手作り豆腐で笑顔

7月25日、鎌田地区公民館で磯部紀子さんを講師に迎え豆腐作り講座を開催しました。エプロン姿の20人が、水に一晩つけてあった大豆とつけ水をミキサーにかけてところから始まり、本格的な工程を経て、豆腐を作りました。

豆腐が固まるまでの間におからサラダを作ります。お母さんと一緒に参加した小学生が、包丁を上手に使ってキュウリを切っていました。おからにキュウリ・トウモロコシ・マヨネーズなどを加え、彩りの良いサラダの完成です。

試食では、まず何も付けない豆腐を食べてみると、豆のうまさ口一杯に広がりました。

サラダもおいしく、お土産に持ち帰るといふ参加者の笑顔が、出来栄を物語っていました。



豆乳をすくって布へ入れます

## 雑感

「災害級の暑さ」とか「記録的な猛暑」とかいふ言葉が連日報道された今夏。国連事務総長も「地球が沸騰する時代に突入した」と危機感をあらわにした▼夏日・真夏日では事足りず、2007年からは最高気温35度以上の日を「猛暑日」と呼んでいる。そして昨年8月、ついに日本気象協会は、最高気温40度以上の日を「酷暑日」、最低気温30度以上の夜を「超熱帯夜」と唱え始めた▼昼休み、公園の木陰を蝉時雨を浴びながら歩いていると、何やら動くものを感じると、何やら動かないものを感じると、なんとなんと、セミの幼虫だ。セミの抜け殻はよく見かけるが、昼日中、羽化前の幼虫が、地面を不器用に歩いているのを見るのは初めてだ。踏まれては可哀そうと、黄土色の体をつまんで木の幹に掴まらせたところ、幼虫は、ゆっくりとだが上手に登って行った▼セミの羽化は、夕方から夜が一般的だ。地中が暑すぎて、堪らずに出てきてしまったのかもしれないと思ったら、蝉時雨が、やけに暑苦しく覆いかぶさってくるように感じられた。(小山淳二)